```
from datetime import datetim
import time
import RPi.GPIO as GPIO
import picamera
from slacker import Placker Ollecher
```

INTERVAL = 3 # スリープタイム SLEEPTIME = 10 # 使用するGPIO

finally:

GPIO.cleanup()

print("GPIO clean完]

Toilecher

```
GPIO PIN = 18
GPIO.setmode(GPIO.B
GPIO.setup(GPIO_PIN
#slackOtoken
token = " slackOtol
slacker = Slacker(t
# #toiletに送信
channel name = "#"+
# メッセージ内容
message = 'トイレした
if name == ' n
   try:
       print ("処理
       cnt = 1
       while True:
           # センサ
           if(GPIO
レ")
           else:
   except KeyboardInterrup
       print("終了処理中。。。
```

人間の健康に関心が寄せられているのと同様に、昨今ではペットの健 康にも大きな関心が寄せられている。しかし、ペットと人間の共通言語が 少ない現在、体調を把握する方法は人間に比べて非常に少ない。そこ でペットから発せられる視覚的情報の微々たる変化からを継続的にログ を収集することで健康管理ができるのではないかと思い至った。センサー やコンピューターの小型化により、連続的な観察を行うことが昔に比べて 容易になったからである。

そこで、小型コンピュータである「Raspberry Pi」と Microsoft 社が 提供しているクラウドサービスの Azure で提供される画像認識サービス である「Custom Vision」を活用してペットの健康管理をするシステム及 びプロダクトを製作した。

Python/ HTML/ Azure Custom Vision



https://github.com/ryo-simon-mf/submit-Practice_of_Open_Design Ryo Nishikado